

2025 年 10 月 17 日

各 位

株 式 会 社 エ ム テ ィ ー ア イ
代表取締役社長 前多 俊宏
(東証プライム・コード 9438)
問い合わせ責任者
専 務 取 締 役 松 本 博
TEL : 03-5333-6323

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、当社の現状分析を行い、企業価値向上に向けた今後の取り組み内容を取りまとめたので、別紙の通りお知らせします。

以 上

【お問い合わせ先】

株式会社エムティーアイ
IR室 e-mail: ir@mti.co.jp
URL: <https://ir.mti.co.jp>

添付資料

2025年10月17日

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

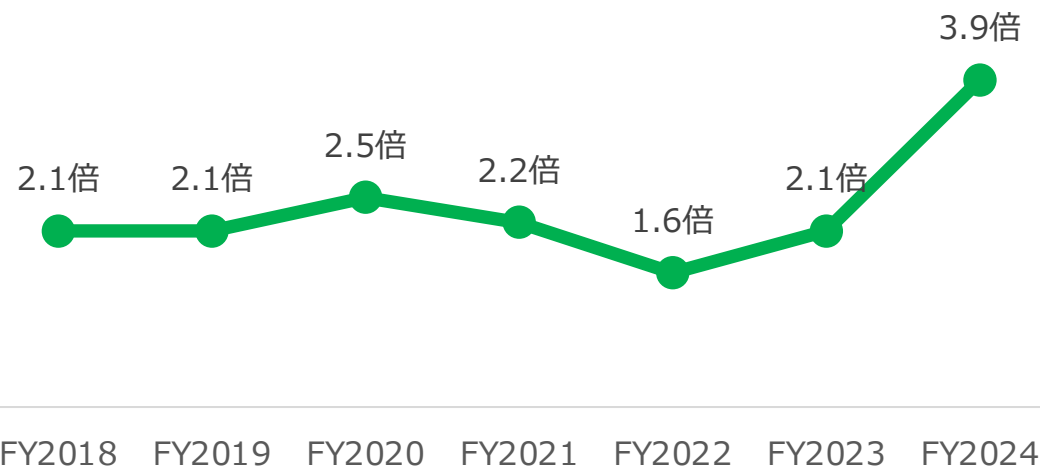
株式会社エムティーアイ（証券コード：9438）

本資料における業績の見通しは、当社が本資料発表時点で入手可能な情報による判断、仮定および確信に基づくものであり、今後の国内および海外の経済情勢、事業運営における内外の状況変化、あるいは、見通しに内在する不確実な要素や潜在的リスク等、さまざまな要因により実際の業績が見通しと大きく異なる結果となり得ることがあります。なお、リスクや不確実な要素には将来の出来事から発生する予測不可能な影響等も含まれます。

1. 現状分析：PBRとPER（7年推移）

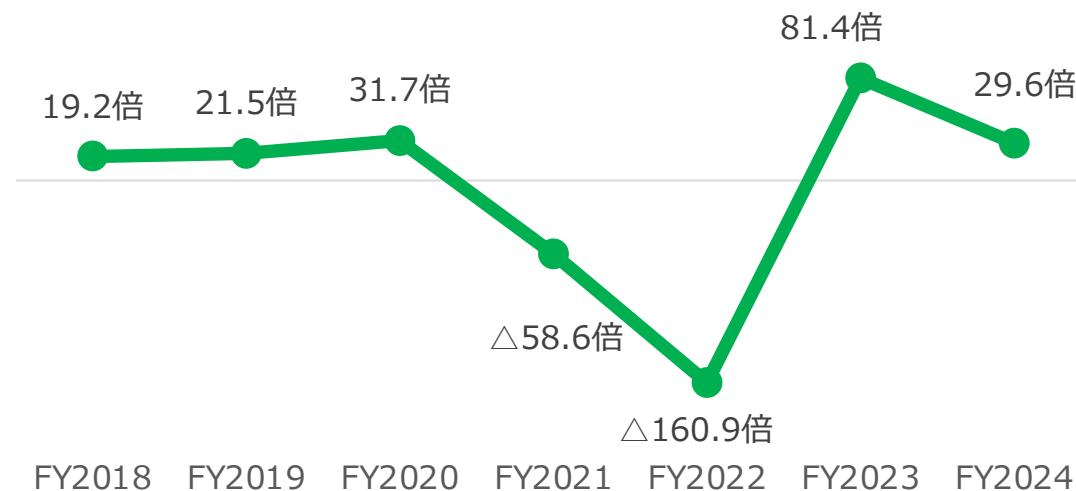
PBR 3.9倍

- ・FY2018～FY2023は2倍前後で推移。
- ・FY2024は時価総額アップにより4倍程度まで上昇。



PER 29.6倍

- ・通常は20倍程度で推移。
- ・注目度が上がるタイミングでは30倍程度まで上昇。



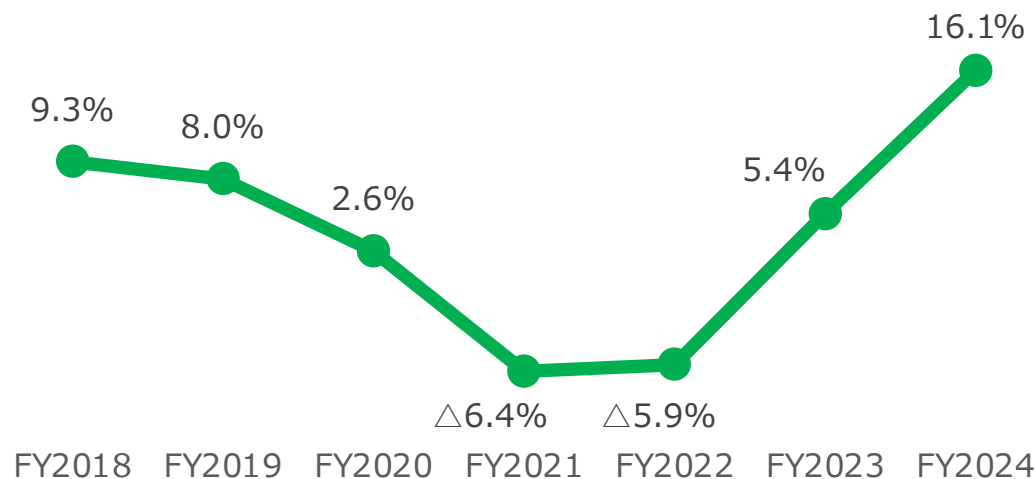
(注) PERは期末日の株価と3Q決算発表時点の当社公表業績見通しにて算出

1. 現状分析： ROE（7年推移）と株主資本コスト

ROE **16.1%**

>

株主資本コスト **8.1%**



リスクフリーレート

β

リスクプレミアム

$$0.294 + 0.625 \times 12.48$$

- ・リスクフリーレート：日本国債10年物金利の3ヶ年平均値（出典：財務省『国債金利情報』）
- ・ β ：週次3年のデータ（公開情報を基に自社にて算出）

- ・FY2020～FY2023：
特別損失の発生や会計上の要因により低水準な状況が続く。
- ・FY2024：
業績改善とともに、消費税還付の影響もあり16.1%まで回復。

1. 現状分析：総括

- FY2024のROEは株主資本コストを上回る水準。
- 持続的な利益成長とともに、各種施策の推進が必要。

	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024
PBR（倍）	2.1	2.1	2.5	2.2	1.6	2.1	3.9
PER（倍）	19.2	21.5	31.7	△58.6	△160.9	81.4	29.6
ROE（%）	9.3	8.0	2.6	△6.4	△5.9	5.4	16.1

- ➡
- ROE向上とPER向上を通じて、PBR（企業価値）の向上に繋げる
 - 株主・投資家の皆さまとの対話の充実を図る

2. 企業価値向上に向けて：全体像

企業価値向上（PBR向上）

ROE向上

売上高純利益率

$$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$$

×

総資産回転率

$$\frac{\text{売上高}}{\text{総資産}}$$

×

財務レバレッジ

$$\frac{\text{総資産}}{\text{自己資本}}$$

A. コア事業の収益拡大
(連結PLでのオーガニック成長)

B. 資本効率を意識した
事業モニタリングと
事業ポートフォリオの最適化

C. 投資と株主還元の両立

D. 規律ある財務レバレッジの活用

PER向上

期待成長率

株主資本コスト

$$\text{PER} = \frac{1}{\text{株主資本コスト} - \text{期待成長率}}$$

E. 期待成長率の向上

F. 株主資本コストの低減

2. 企業価値向上に向けて：骨子および取り組み内容

① ROE向上に向けた今後の取り組み

骨子

取り組み内容

A. コア事業の収益拡大

(連結PLでのオーガニック成長)

- ヘルスケア事業
(薬局DX、子育てDX事業)の持続的拡大
- 学校DX事業の持続的拡大

B. 資本効率を意識した事業モニタリングと 事業ポートフォリオの最適化

- 選択と集中を通じてコア事業への重点的なリソース配分
- 不採算事業からの撤退(含む売却)

C. 投資と株主還元の両立

- 事業戦略に立脚したM&Aの実行
- 配当性向の段階的引き上げ

D. 規律ある財務レバレッジの活用

- グループ全体における外部資金調達の中で
全体最適化を検討

2. 企業価値向上に向けて：骨子および取り組み内容

②PER向上に向けた今後の取り組み

骨子

取り組み内容

E. 期待値成長率の向上

- 中長期の経営目標数値の開示
- コア事業の成長ストーリーの開示

F. 株主資本コストの低減

- IR活動を通じた株式マーケットとのエンゲージメント強化
- 予算管理強化による業績ボラティリティの低減

3. 株主・投資家の皆さまとの対話

IR・SR活動を通じた各ステークホルダーとの対話の充実

具体的な取り組み内容

1. 株主との対話

- 定時株主総会：会場とオンラインのハイブリッド開催
→ あらゆる年代の株主さまが参加しやすい環境を整備
- 定時株主総会後の近況報告会の開催
→ ご意見等を頂戴する貴重な場として位置付け、事業説明も兼ねた説明
- 招集通知英文化

2. 個人投資家との対話

- 年に1回以上の開催を検討中

3. 機関投資家との対話

- 四半期ごとの決算説明会（ライブ配信）
→ 原則として代表取締役社長および取締役が出席
- 1on1MTGの対応
(2024年9月期実績) 延べ57回開催



〈お問い合わせ先〉
株式会社エムティーアイ I R 室
e-mail: ir@mti.co.jp
<https://ir.mti.co.jp>